



新スタッフでスタートしました！

令和5年度の新学期が始まり、皆様方には充実した日々をお過ごしのことと存じます。

昨年度はコロナ感染の第5波と第6波の中ではありましたが、例年通りの活動を行うことができました。関係の皆さまには大変お世話になり、ありがとうございました。新年度におきましても引き続きご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、当育成センターで長年勤務してまいりました、小竹所長と藤井専任指導員が、昨年度でその職を終えられました。それに伴い、新たに所長は「小川晋一」、専任指導員は「工藤茂美」が着任しました。前任者同様よろしくお願いいたします。なお、大島は留任しております。

《着任のご挨拶》～所長 小川晋一～

本年度から育成センターで勤務することになりました小川と申します。近年、青少年を取り巻く環境は悪化しており、「地域・学校・関係機関団体」の皆さまのご協力を得ながら、より一層の連携を強化して、青少年の健全育成に尽力してまいりたいと考えております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



～専任指導員 工藤茂美～

藤井専任指導員の後を受け、勤務させていただく工藤です。青少年の健全育成を目的とした職に携わることによりやりがいを感じています。将来を背負って立つ青少年を温かく見守り地域社会の構築を目指し所長と力を合わせて頑張りたいと思っています。よろしくお願いいたします。



《離任のご挨拶》～前職員 小竹正巳 藤井陽一～



浅口市青少年育成センター在職中は指導員の皆様をはじめ、関係機関の方々には大変お世話になり、深く感謝申し上げます。

小竹にあっては8年間、藤井にあっては6年間ではありましたが、浅口花火、年末補導や列車補導、定例補導等、思い起こせば色々なことがありましたが、月日の経つのは早いもので、まさに「光陰矢の如し」でした。

私達の今日迄の活動から、少年たちが心を豊かにし、健康で安定した生活を築き、次代の担い手となるためには、ボランティアの皆様方のご協力が、一番重要であることを悟りました。

本当に有難うございました。

とある9月の日、運動会の応援へ駆けつけた。熱くうだる昼休憩中、PTA会長が壇上で熱く語っていた。私の父だ。

昔から人前に出るのが得意でアドリブ好きの父は、その日も手を後ろに組み、原稿も持たず、マイクの前で5分以上しゃべっていた。カッコつけだとしても大したものだと家族から尊敬のまなざしを受けながら、父がシメの一言を放った。

「諸君、今日の思い出を胸に切り刻んでください」
切り刻んでしまった。大事な思い出、粉々である。正確には『胸に刻む』だ。満足げにテントに戻って来た父だった。しかしこんなハプニングは朝飯前である。

父のアドリブ

雪もちらりと降る肌寒い3月の卒業式。またしても熱いPTA会長は祝辞を述べる機会があった。その際も変わらず原稿なしアドリブトーク。

しかし、この日は若人へ届けるべく最後に決めぜりふを用意していたらしい。

それが『三つの気』だ。終わりに差し掛かり、ついにその時が来た。父は勢いよく、

一日一題

やる気！ 負けん気！ と言ったところで止まってしまった。一つ目の『元氣』を飛ばしてしまっただのである。考えたのち父が出した答えは、熱くこぶしを握り締めての「なにくそ！」。
体育館の天井に全員の「え、え？」が浮かぶ。その日も父は満足げだった。

ピアニスト 木口雄人

私は演奏会でよくトークの時間を設ける。以前の演奏会では、ウィーン在住であることから『ウィーンナーコーヒー』について自慢げに説明したことがある。コーヒーにウィーンナーが入っていませんよ、と最も大事なオチを言うべきところで私が言ったのは、「ウィーンにウィーンナーは入っていませんよ」。コーヒーはどこへ行った。DNAとは恐ろしい。



木口さんの文章はユーモアと痛快さ、明るい自虐があり、読むと毎回心が軽やかになるものでした。木口さん自身も最終回で、読んだ方々の心が楽しく軽くなることを望んで執筆したと書いてありました。さて、皆様方の職場はいかがでしょう。日々愉快地に過ごせていますか。以前SCの先生に『職員の関係が良くなる方法は？』と尋ねたら『職員室での先生同士の会話を80%雑談にしてください！』でした。新年度、まずは職員の絆づくりですか。